滯　歐　雜　記　帳

工學士　山　本　峰　雄[1]

1. W.H.W. と航空機

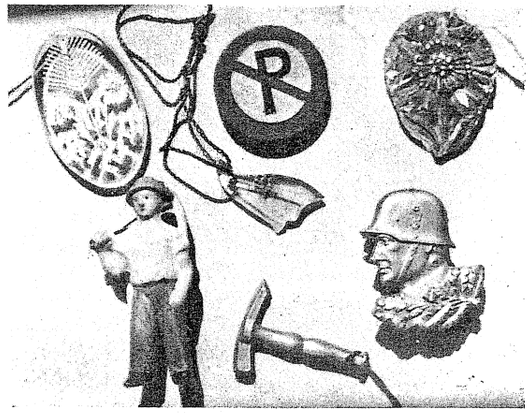
西海岸の見學旅行を終つて再び紐育に歸つて見ると冬の息吹は此處にも迫つて居た。シカゴの樣に11月の初めから白いものがちらちらすると云ふ事はないが最早美しいニューイングランドの紅葉も散り果てゝ高い摩天樓の間を冷い烈風が吹卷くつて居た。2ケ月半の滯在の後思出多いホテルの部屋を引拂ひマンハツタンのノルトドイツチエロイドの波止場に入つて居るブレーメンに乘込んだのは11月15日の午後10時30分であつた。伯林を始め獨逸各地の反ユダヤ人運動が巴里駐在の獨逸大使館員の不慮の死を契機として頂點に達し獨逸各地にユダヤ人排斥の暴行の嵐が吹すさんだのは數日前で，此の問題を繞つて米國と獨逸の感情は極度に背反して來て兩國の新聞は互に非難と反駁の應酬を繰返して居た。今晩のブレーメンの出帆は埠頭前に黑山のやうに集つた示威運動者と之を警戒する騎馬巡査の嚴戒の下に準備が進められて居る。埠頭上屋には特別に嚴重な警戒網が敷かれ，日本人以外の見送人は殆んどない。いつもの華かな出帆とはおよそかけ離れた寂寞たる風景で，ブレーメンの音樂隊の奏樂と埠頭の外側に集る示威運動の合唱とが交錯して，うつろに暗い上屋の空氣をふるはして居た。

斯くて16日零時半ブレーメンは熱狂する示威運動を埠頭通りに殘して出帆し，ハドソン河で一旋回してコーストガードの汽艇に護られて河を下り始めた。マンハツタンの摩天樓の華かな灯影やエムパイヤビルの航空照明燈の光束に名殘りを惜み自由の女神の炬火を右に見て，米國の領海を離れた。愈々7ケ月に亙る獨逸の生活の幕が始まつたのであつた。

冬の北大西洋は雲が低く垂れて物凄いうねりが此の5萬噸の巨船を襲ひ，ひどいローリングと舳に激突する波の壓力に依る間歇的振動が船の中の生活を落付かない雰圍氣で包んだ。氣溫は次第に下つて外套無しでは甲板に出られなくなつた。人の話に聞いた伯林の冬の寒さを想像して，トツプコートしか持つて居ない私は些か不安を感じて來た。物資特に食糧が少くて冬の中は生の青物が手に入らない，油脂類は切符制度である，或る日本人は滯獨2年の中にカラーの寸法が四糎減つた等と云ふ話を，獨逸からの歸途紐育に立寄つた僚友から聞いて居るので，物資の豐富なアメリカに滯在した我々は冬の獨逸に行く時皆一樣に或る心構へを持つて居た。果してブレーメンの中で獨逸の冬を如實に旅人の我々に認識させたものはナチス黨の冬期救濟事業（Winterhilfswerk）卽ちW.H.W. であつた。或る午後船のボーイが小さな手帳型の小冊子と金を入れるブリキ罐を持つて船客から寄附を募つて歩いて居た。一體何の寄附かと尋ねると獨逸の冬期救濟事業で，冬中或る一定の日を定めて一般の人から寄附を募つて貧民の救濟費に充てるので，黨の重要な年中行事であると聞かされた。幾何寄附するのかと聞いた所，適當な額でよいと云ふので20フエニツヒを罐の中に入れて小冊子を貰つて讀んで見た。表紙には「ヒツトラーと冬期救濟事業」と云ふ題が書いてあつてヒツトラーが募金罐に寄附金を入れて居る寫眞が載せてあり，中には獨逸各地の冬期救濟事業の狀況を示す寫眞を多數掲載し，最後に1937年から38年のW.H.W.に於けるヒツトラーの演說が載せてある。此の小冊子を讀んで私は未だ見ない國家社會主義獨逸の社會生活に朧げに興味を持つて來たのである。

乳色の霧に包まれた淺瀨の中に通る1本の水路を辿つて古色蒼然たる北海の港ブレーマーハンフエンに着き，伯林に落付いたのはそれから數日經つた11月22日であつた。

プラットフオームに迎へて呉れた先輩2氏と豫ねて紹介されてあつた日本人會の附近の下宿に落付いた翌朝，地圖を頼りに外出しようとすると宿の主婦が胸にアルミニユム製のマークをつけて呉れた。よく見ると交通標識らしい。自動車のパーク禁止の國際標識もあるし，直進を示す矢印もある。交通安全週間をやつて居るのかと思つて聞いて見ると，さうではなくて矢張りW.H.W.で街頭で此の樣なマークを10フエニツヒで賣つて，義金を集めるのであると聞かされた。そして此のマークをつけて居ないと道行く人々が皆つけて居るので，いやでも買はなければならないと敎へられた。然し此の時の滯在は1週間の短期間であつたので旅人の私はW.H.W.は各國で行はれる冬期の慈善事業位に考へて居たのである。ましてW.H.W.に於ける飛行機の活躍等は考へもしなかつたのである。W.H.W.が全國的に極めて大規模に行はれ，黨員は勿論一般の男女の篤志家や，ヒツトラー青年團，獨逸處女會員等が街頭に立つて募金し，ナチス黨飛行隊（ＮＳＦＫ）や軍隊迄がW.H.W.のために大々的な活躍をする事は英，佛の2ケ月の旅を卒へて1月末2度目に獨逸に歸つた時に始めて知つたのである。

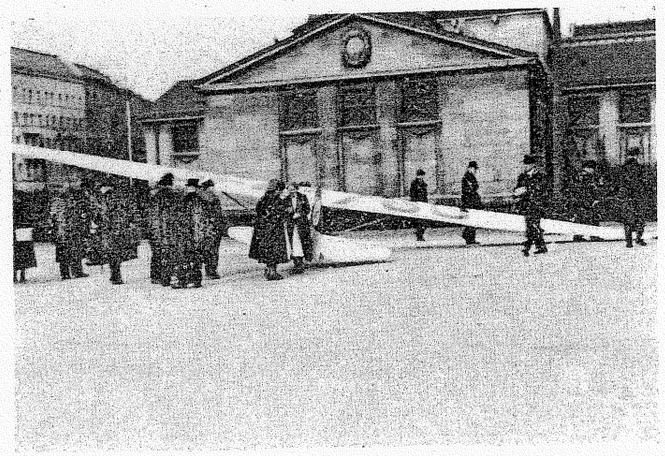


第1圖　W.H.W.街頭募金のマーク

W.H.W.は土曜の夕方から日曜に掛けて1ケ月2回位行はれる。W.H.W.の日には街頭，料理店，カフエーからロカール迄一樣に募金箱を下げた人々が訪れてマークを賣つて金を集める。その度毎に異つたマークが賣出され或る時は交通標識のマーク，或る時は，獨逸の復興に重大な役割を演じつゝある勞働者の陶器製の小人形，或る時は矢車草などの獨逸の花の美しい硝子細工，或る時は第三國家の興隆を生み出す工具等，獨逸の國土に對する愛を養ひ，勤勞階級に對する尊敬を涵養し，獨逸の自動車化に適應する大衆敎育を目指した設

第5圖　伯林のW.H.W.（著者）

（1）航空研究所



第3圖　ウイツテンベルヒプラツツのゲツピンゲン三型グライダー（著者）

第4圖　ルストガルテンのメツサーシユミツト *Me* 109型戰鬪機（著者）

ツトラー親衞隊の自動車が行進したり，之も獨逸人の好きなダンスを見せたり，小人の家を作つたりW.H.W.の日曜は寫眞機を持つて伯林の催物を見て歩いて一日を退屈しないで過せる。

然し何と云つてもW.H.W.の催物の中で一番大掛りなのは軍隊日であらう。1939年には3月18日と3月19日をW.H.W.の軍隊日（Tag der Wehrmacht）として各地の軍隊が一般市民に兵營と軍隊の學校を開放し，模擬戰等をやつたりしてW.H.W.の義金を募集した。此の時のマークは銀色の兵士の胸像で1個20フエニツヒであつたが，50フエニツヒをはずんで金色のマークを買ふと，それが兵營や軍隊の學校への入場券の代りになつた。伯林では18日の土曜日には各廣場にグライダーや飛行機或は戰車を飾つて一般の觀覽に供した。伯林の3月は未だ氣温も低く木枯を渡る風も冷く，此の日も北國特有の低く垂れた層雲が空を覆つて居たが，軍隊日は伸々の人氣であつて，ウイツテンベルヒ廣場にはNSFKがゲツピンゲン3型グライダーを持出しNFSKの活動を書いたパンフレツトを賣つて居り大人も小供も婦人も通りすがりにグライダーを見物して說明を聞いて居る。ウンターデンリンデンのはづれルストガルテンにはメツサーシユミツト 109型戰鬪機舊型機とユンカース87型急降下爆擊機が多數の戰車と共に飾られた。飛行機の前には要目と性能が書いてあつて大變な人混みであつた。翼の上には梯子が渡してあつて操縱席が見られる樣になつて居る。義金を募集したり，大衆の航空教育をやつたり仲々頭がよいと大いに感心させられたものである。

19日の土曜日にはフイーゼラーストルヒが伯林の兵器廠の廣場に着陸して觀衆を驚かせ，ルストガルテン其他では阻塞氣球を持つて來てガス膨脹及び飛揚の實演を見せ又數個所の廣場には20粍，37粍，88粍の高射砲を据えて風雲益々急な歐洲の狀勢を想起させた。又ルーベンのエクセルチーヤ廣場では飛行機と步兵の協同模擬戰を展開した。更に伯林附近の飛行隊，防空隊，步兵や砲兵の聯隊，各種の軍隊の學校等26個所を開放して其の施設や，武器等を見せたのである。之も伸々人氣があつて多數の人が郊外の兵營等に家族連れで出かけた。私も新しく出來たガトーの空軍大學を見るべく友人と2人で金色の兵士のマークを外套の襟につけて寫眞機をぶらさげて雨の中を出掛けた。空軍大學は最近出來た許りであるだけに空軍士官の養成の爲に恐しく廣大な飛行場を持ち，森の中に散在する兵舍や研究室の設備は有名なものである。營門で呼止められて寫眞機を預けなければいけないと云ふので衞兵所に持つて行くとW.H.W.の爲に寫眞機の預り料として20フエニツヒ寄附して呉れと云つて例の募金箱を出された。成程うまい事をやるものだと大いに感心した譯である。冬枯れた花檀の中の長い道を通つて廳舍前に行くと空軍の軍樂隊が雨の中で奏樂をして居る。晝食の爲に廳舍の中の食堂に入つて兵隊さんのサービスで一品料理を食べて居ると，構內見學の爲のバスが出るから希望者は廳舍前で待つて居れと放送される。雨の中にバスを待つ群の中に入つて居る。あたりを見まはすと外國人は我々2人だけらしく婦人や子供が半分位を占めて居る。軍隊用の黑灰色に塗つた大型バス3臺に分乘して構內まはりが始まる。物理研究室や計測器研究所等此の大學の誇る教育施設は案內の士官の說明で外から覗くだけで素通りして森の中を飛行場に向ふ。ユンカースの古い單發低翼單葉機上作業練習機やドルニエ17型爆擊機，ハインケル 111型爆擊機等新舊とりどりの飛行機が廣い飛行場の境界線に沿つて雨の中に一列に野外繫留してある。飛行場の果てはポツダムのゴルフ場に至る街道に延びて擴張工事中であり，格納庫も增設中である。森の中の兵舍に入つて空軍學生の起居する部屋を廻る。案內係の空軍士官が說明をして呉れる。各部屋にラヂオがあり各人机を持つて居て仲々立派である。兵隊さんがあけて見せて呉れた。ロツカーの中には整然と軍隊らしく所持品が並べられて居るが，ロツカーの戶の裏には婦人の寫眞がはつてあつて外國映畫に出て來る兵營の場面と全く變らない。

第5圖　ルストガルテンのユンカース *Ju*87型急降下爆擊機（著者）

再びラツシユアワーの省線の樣に混んだバスに乘ると前の方からシガーの空箱がまはつて來て自

動車賃としてW.H.W.の爲に30フエニツヒ以上寄附をして呉れと傳言が傳はつて來る。成程拔目の無い所は典型的に獨逸式だと感心したり苦笑したりして，再び友邦の爲に30フエニツヒを寄附する。消防隊の演習を見て廳舍前に歸ると暮れるのが早い獨逸の冬の日は少し暗くなつて居た。歸途ツオーのブルグケラーで夕食を共にしながら友人とW.H.W.の話や，獨逸の空軍の偉力等を話して居るとすつかり日が暮れてしまつて，カイザーウイルヘルム紀念敎會の鐘が雨の中を傳つて來る。今年のW.H.W.ももう2週間で終るのであるが，街頭募金や俸給の寄附や，物資の寄附等は大變な額に上り，之等が獨逸全國の貧困階級を賑はし，新に此の4日前に獨逸領となつたボヘミヤやメーメルの人民或は去年獨逸領となつたズデーテンの人民の救濟に充てられるのであると考へて居ると，故國の暮が想起されるのである。

扨此の樣にして集めたW.H.W.の寄附は今迄6年間に實に總額25億マーク（1マークは約1圓20錢）に達し勞力を奉仕した者は去年だけで110萬人であるとは去年の10月から今年の3月迄の所謂戰時冬期救濟事業（Kriegswinterhilfswerk）の始めに宣傳大臣ゲツベルス氏が報告して居る。街頭募金に活躍する黨員，一般男女やヒツトラー少年團，獨逸處女會等（BDM）を始め各種の催物に從事する人々は全て勞力の奉仕を行ひ，W.H.W.に給料を貰つて働く人は全體の1パーセントに過ぎないとの事である。文字通り國家總動員の救濟事業である。そして此のW.H.W.の催しの中で空軍やNSFKの果す役割が極めて大きい事も航空國家獨逸らしくて面白い事である。W.H.W.の募集する金額が餘りにも大きいので，各國共其の使途が單なる救濟事業だけではなく，空軍や機械化部隊の方に廻されて居るだらうと邪推して居るやうである。

3月16日のチエコ併合の後で佛國の新聞に次の樣なしやれが掲載されたさうである。即ち獨逸はチエコの次にはポーランドでなくアイスランドを攻略するだらうと云ふのである。それはアイスランドを取れば1年中W.H.W.を行ひ獨逸の人民から金を絞上げて軍備を充實する事が出來るからだと云ふのである。之を以てしてもW.H.W.が如何に世界一の大規模に活躍しつゝあるかが判るであらう。

航空知識2月號

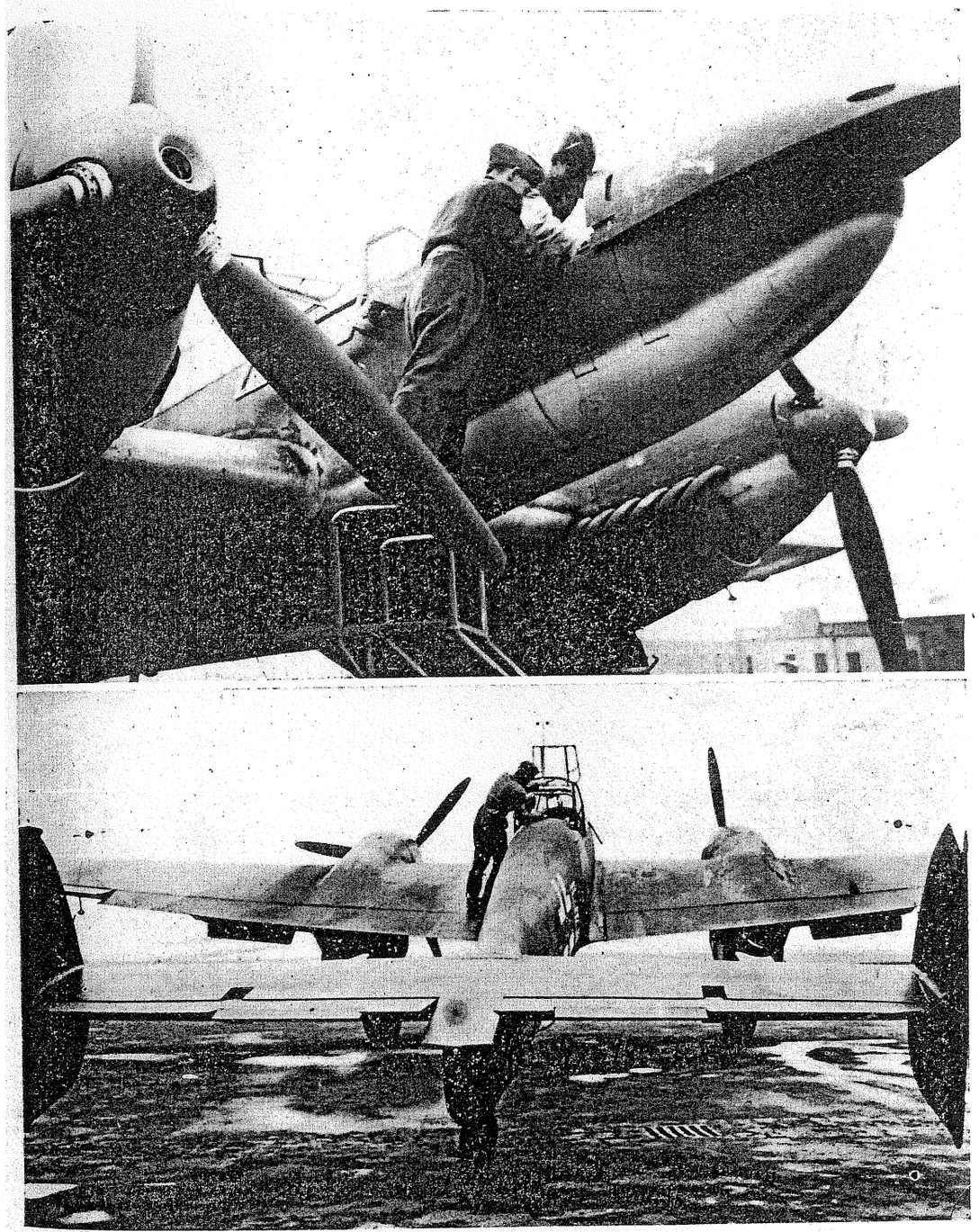
飛行艇の話—速度……工學士　菊原　靜男
アルミニウム合金の鍛造に就て…工學士　遠地　正夫
應用空氣力學講座……工學士　岡本　哲史
最近の脚構造に就て……工學士　廣津　萬里
最近の特許發明解說……工學士　山村　武雄
錐揉の初步研究……工學士　田島　良幹
排氣系統材料としてのインコネル……
……文學士　高見澤榮壽

（定價50錢）

航空知識3月號

Concentration and Distribution of Stress……
……工學士　久保　富夫
航空發動機の出力概念……工學士　藤田　斬
新航空機用輕合金に就て……工學士　田尻　秀男
飛行艇の話——離水……工學士　菊原　靜男
大戰下の巴里から……工學士　駒林榮太郎
應用空氣力學講座……工學士　岡本　哲史
錐揉の初步研究……工學士　田島　良幹
アルミニウム合金の鍛造に就いて……
……工學士　遠地　正夫
世界航空情報……郡　龍彦

（特價60錢）



メッサーシュミットMe110型双發戰鬪機　二月號で紹介したもののクローズアップ．近寄つて見るとそれ程感心させられる點はない．プロペラスピナーの先端の孔は機關砲を射つためのものではなく，機關砲は主翼に取付けられてゐるらしい。（井田昌吉）